



営業にも通勤にも
ビジネスリュックを
愛用しています

「以前、ソフトボールで全日本シニアとねりんピックに出場したことがあるんですよ」と、営業部統括部長の相場信行さん。仕事と趣味の両立が健康につながっているようだ

「健康」と「人とのつながり」そして『そこそこのお金』。元気がだから働くのではなく、働くから元気になるんです（村関さん）

シニア人材サービス会社の65歳以上の求職者の仕事観に関するアンケートでは「就業動機」の「生活充実や社会貢献志向」が52%で「経済的理由」の42%を上回っています

「企業にも求職者にも感謝されるのが嬉しい」

2021年に入社した相場信行さんは、月14日勤務の契約社員。取引先責任者との折衝、登録スタッフの管理、人材探しと多岐にわたって活躍中だ。

「前職は東京ガス関連の設備工事会社だったのですが、定年間にコロナ禍で在宅勤務を経験しました。会話がな、外出できない、飲みにも行けないと、心も



2025年に宝島社から発行された高齢社監修「人には聞けない60歳からのビジネスマナー」。同社の研修をもとに編集しているという

体もすさむようでした。一時は独立も考えましたが、コロナ禍でそれも難しいと、入社を決意しました。前職のスキルも人脈も、今の仕事をするためにあったのではないかと感じるほど役立っているという相場さん。東京ガス関連に限らず取引先にも求職者にも、『いい人を紹介してくれたい』いい会社を見つけてくれた」と両方から感謝されています。やりがいを感じています

DATA
株式会社高齢社
住 東京都千代田区外神田3-6-4
OSビル5階
電 03-5296-7823
HP <https://www.koureisha.co.jp>



モットーは
は、げ、あ、た、ま
なんです

「働くから、元気になる。明るく、楽しく、前向きにの頭文字をつなげました」

今どきシニアと企業の新しい関係

Another Life

取材・文／中林貴美子
撮影／筒井聖子

「私も定年退職を機に当社に入社しました」という代表取締役社長 村関不三夫さん

高齢者が活躍する 高齢社会を目指す

2025年には65歳以上が総人口に占める割合が約3割となり、超高齢社会を迎えた日本。65歳以上の就業者も増加を続けている。高齢社は、定年となった高齢者が働く時代を見越して2000年に設立した企業だ。

「創業者の上田研二は、ガス機器の点火確認業務などを請け負う東京ガスの子会社の社長でした。この業務は突然依頼がくる、土日に依頼が集中するなど、正社員が担務するには負担が大きかった。そこで、定年退職された先輩たちに注目したのです」と教えてくれたのは5代目社長の村関不三夫さんだ。



～高齢者に“働く場”と“生きがい”を提供する「株式会社高齢社」～

「人は“働くから元気になる”。無理なく働き、幸せな老後を築くお手伝いをします」

体が動くうちは働きたい。適度に体を動かし、健康を維持したい。高齢社はそんな求職者と企業をマッチングする人材派遣会社だ。登録者の平均年齢は72.5歳、自社スタッフの平均年齢も69歳と、シニアが主役となれる場を提供している。